

全国地方教育史学会第 49 回大会の案内をお送りします。より参加しやすく、多くの研究が生み出されることを目指す学会改革の一環として運用されております、**大学院・非常勤職会員の研究発表者の懇親会費用無料**を今大会でも実施します。加えて、今大会でも**全参加者の参加費を無料（！）**とすることになりました。会員のみならずお会いできることを心待ちにしております。

第 49 回「滋賀大会」開催について

杉浦由香里（滋賀県立大学）

2026 年 5 月 30 日（土）・31 日（日）、第 49 回「滋賀大会」を滋賀県大津市にて開催いたします。滋賀県大津市は琵琶湖の南西に位置する県庁所在地であり、世界文化遺産である比叡山延暦寺をはじめ由緒ある神社仏閣が点在する地域でもあります。

滋賀大会 1 日目には、2023 年から始まった滋賀県史編さんの拠点となっている滋賀県立公文書館（滋賀県庁新館内に併設）にて資料見学会を行います。滋賀県立公文書館は 2020 年 4 月 1 日に開館しました。その前身は、2008 年に滋賀県庁の県民情報室内に開設された県政史料室です。滋賀県立公文書館では、歴史公文書等を約 3 万冊保存しています。このうち、明治期から昭和戦前期の 9068 冊は滋賀県指定有形文化財となっています。さらに、明治期から昭和戦前期の目録はすべて滋賀県立公文書館 HP の「資料目録」欄にて、エクセル方式で公開されています。教育に関する目録を事前にご覧いただければ、簿冊数の多さだけでなく件名目録の詳細さに圧倒されることと思います。

資料見学会では、滋賀県立公文書館の認証アーキビストである大月英雄氏から公文書館ならびに県史編さん事業についてご紹介いただく予定です。また、滋賀県立公文書館では学校連携事業の一環として『歴史公文書が語る湖国』の授業活用が検討されてきました。この授業活用研究会の会長を務めた宮坂朋幸会員（大阪商業大学）に「滋賀のアーカイブズ（滋賀県立公文書館だより）」に特集された授業指導案づくりの試みや公文書の活用についてご紹介いただきます。加えて、館内見学時には、企画展「湖国が育む子どもたち」をご覧いただくとともに、明治期から昭和期における教育関係の歴史公文書をご覧いただく予定にしております。

懇親会は、JR 石山駅前にある創作料理町屋居酒屋「でんや」にて開催します。JR 大津駅から JR 石山駅までは新快速で 1 駅（5 分）です。滋賀県の地酒もご用意いたしますので奮ってご参加ください。

2 日目は、ピアザ淡海（滋賀県立県民交流センター）2 階で行います。京阪電車石場駅から徒歩約 5 分、JR 膳所駅から徒歩 12 分です。琵琶湖畔に面し、琵琶湖を一望できるロケーションです。滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールの隣にある建物ですので、びわ湖ホールの案内を目印にお越しくください。なお、昼食は、館外のレストランをご利用ください。湖畔沿いに数軒、徒歩 10 分圏内にいくつか飲食店がございます。

二日目の分科会は 2 会場（203 会議室・207 会議室）に分けて開催します。午後は、それぞれ会員控室・シンポジウム会場として使用します。

午後の公開シンポジウムは、「自治体教育史をなぜ作るのか、どう作るのか」をテーマに開催します。滋賀県は、自治体教育史が刊行されていない全国で唯一の県です。滋賀県教育史を未完の夢に終わらせないための展望を語り合いたいと考えております。

大会日程表

5月30日（土曜日） 大会初日 滋賀県立公文書館、でんや石山駅前店		5月31日（日曜日） 大会2日目 ピアザ淡海（滋賀県立県民交流センター）	
14:00	集合 （滋賀県立公文書館）	9:15	受付開始 （2階207会議室前）
14:00～14:30	公文書館の説明	9:30～12:30	研究発表（203・207会議室）
14:30～15:00	公文書の活用	12:30～13:30	昼休憩
15:00～16:30	館内見学・資料閲覧	13:30～15:50	常任幹事会（201会議室）
16:30	見学終了		シンポジウム（207会議室）
18:00	懇親会開始 （でんや石山駅前店）	16:00～16:30	総会（207会議室）
20:00	懇親会終了		

◎懇親会

「でんや石山駅前店」で開催します。18時までに現地集合してください。
懇親会費は一般会員 6,000 円、院生・非常勤講師会員 4,000 円です。

◎大会参加費

大会参加費は無料です。

◎事前申込について

準備の都合上、「資料見学会」「懇親会」「研究発表」への参加の有無について、5月15日（金）までに Forms にてお知らせください。

事前申込にご協力をお願いいたします。もし入力画面が開かない、Forms の入力が難しいなど支障が発生した場合は、担当の杉浦（sugiura.y@shc.usp.ac.jp）へご一報ください。

※申込先：[全国地方教育史学会賀大会」参加申込書 - フォームに記入する](#)



◎大会2日目昼食について

昼食は会員控室（203 会議室）もしくは 207 会議室をご利用ください。2 階ロビーでの飲食はご遠慮ください。なお、ピアザ淡海周辺には、飲食店も多数ございます。あらかじめ昼食の用意またはお店の下調べなどをしていただければ幸いです。

◎宿泊

宿泊は各自で予約してください。2 日目会場であるピアザ淡海内にはホテルピアザびわ湖（<https://www.hotelpiazza.com>）が併設されています。また、JR 大津駅前などには多数のホテルがあります。宿泊場所の早めの確保をお願いします。

◎大会にて事務局が撮影する写真の取り扱いについて

大会の記録保存、会報・紀要での大会報告を目的に、大会の様子を事務局が撮影します。写真の利用は上記の目的に限定し、その管理には細心の注意を払います。写真にご自身が写ることを望まれない方は、事務局（kkarube@konan-wu.ac.jp）までご一報ください。

◇ 会場へのアクセス

(1) 滋賀県立公文書館：〒520-8577 大津市京町四丁目1番1号 滋賀県庁新館3階

JR大津駅北口より徒歩5分／京阪電鉄島ノ関駅から南南西へ徒歩5分

滋賀県公文書館 HP (<https://archives.pref.shiga.lg.jp>)



(2) でんや石山駅前店：〒520-0832 大津市粟津町4-11

JR石山駅南口より徒歩1分／京阪石山駅徒歩1分

でんや HP (<https://www.denya.jp>)

18時までに現地集合してください。ご協力お願いいたします。遅刻する場合は、杉浦 (sugiura.y@shc.usp.ac.jp) までご一報ください。懇親会費は当日会場にて徴収します。

(3) ピアザ淡海：〒520-0801 大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2階

JR膳所駅から徒歩約12分

／京阪電車石場駅から徒歩約5分

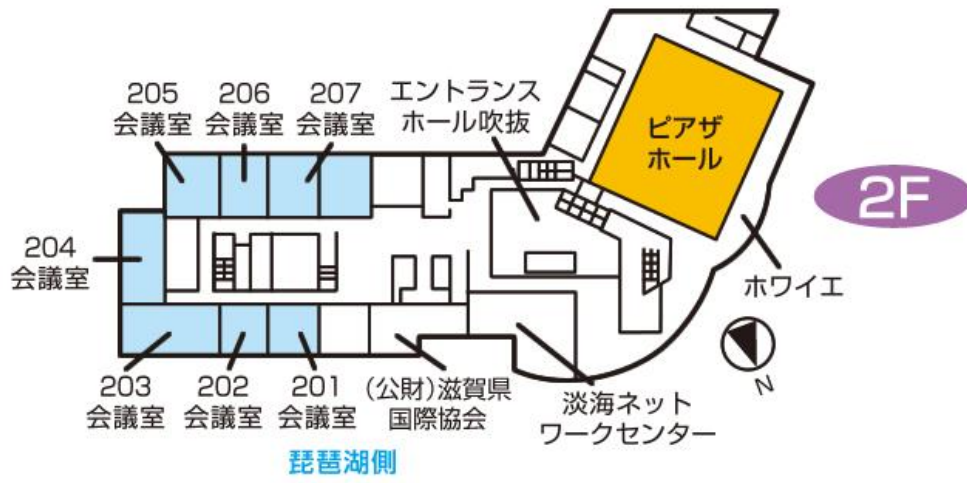
JR大津駅から京阪・近江バス〔草津駅西口行〕または〔石山駅行〕に乗り、「大津署前」下車、徒歩約10分

*滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールの隣にあります。



ピアザ淡海 HP

(<https://www.piazza-omi.jp>)



■ 研究発表・シンポジウム・総会 ■

〈大会 2 日目 5 月 31 日（日曜日） ピアザ淡海 2 階

※研究発表 30 分の内訳：発表 25 分＋質疑応答 5 分

研究発表	9:30-12:30	第 1 会場：207 会議室
------	------------	----------------

司会：佐藤環（茨城大学）・渡辺典子（群馬県立女子大学）

(1) 9:30-10:00

大阪尋常中学校の教員団の特徴に関する考察

小宮山道夫（広島大学）

(2) 10:00-10:30

一八八六（明治十九）年から一八九三（明治二十六）年の新潟県における公立小学校教員検定制度の変遷と利用事例に関する研究—平野秀吉を手がかりに—

槇田善衛（明星大学大学院）

(3) 10:30-11:00

明治期地方教育会会則類の比較研究

白石崇人（広島大学）

(4) 11:00-11:30

近代日本教育史における乙種実業学校の性格に関する一考察—郡制廃止との関係を中心として—

三羽光彦（芦屋大学）

(5) 11:30-12:00

乙種実業学校における農村女子教育に関する研究—滋賀県愛知郡立愛知実業学校を事例として—

久保田重幸（三重大学）

◎ 12:00-12:30 全体討論

研究発表	9:30-12:30	第 2 会場：203 会議室
------	------------	----------------

司会：大矢一人（藤女子大学）・須田将司（学習院大学）

(6) 9:30-10:00

大正自由教育期における富山師範学校女子部代用附属堀川尋常高等小学校の創作教法

山本銀兵（富山大学）

(7) 10:00-10:30

戦前期日本の災害復興と少女雑誌の果たした役割

田中卓也（育英大学）

(8) 10:30-11:00

父・兄たちの徴兵・戦死—ある国民学校児童たちの事例

逸見勝亮（北海道大学（名誉）・北大大学文書館）

(9) 11:00-11:30

「学校農業クラブ」の変遷に関する一考察—社会・経済的变化を背景に—

山片崇嗣（芦屋大学）

(10) 11:30-12:00

設置後の隔週定時制課程—大阪府立和泉高等学校における隔定専用教室確保の過程—

柏木敦（立教大学）

◎ 12:00-12:30 全体討論

◇パソコンを使用して発表される会員の皆様へ◇

パソコンは各自でご持参下さい。当日のセッティングもご自身でお願いします。Macをご使用の場合、HDMIへの接続コネクタはご自身でご持参ください。会場機器の問い合わせは、杉浦（sugiura.y@shc.usp.ac.jp）までご相談ください。

シンポジウム 13:30-15:50

会場：207 会議室

テーマ：「自治体教育史をなぜ作るのか、どう作るのか」

- パネリスト：前田 一男氏（立教大学名誉教授）
「どのような自治体教育史が期待されているのか」
木全 清博氏（滋賀大学名誉教授）
「滋賀県教育史に関する二、三の提言」
- コメンテーター：田中 智子氏（京都大学）
- 司 会：宮坂 朋幸氏（大阪商業大学）
吉川 卓治氏（名古屋大学）

【趣旨】

本学会ではこれまでも自治体教育史を対象とするシンポジウムを開催してきた。近年では2016年5月22日に東洋大学で開催されたシンポジウムにおいて「自治体史・自治体教育史の編さん事業と教育史研究者」をテーマとした。そこでは ①編さん実務に関わる成果・課題と今後の可能性、②資料整理と散逸の防止について議論した。①に関しては研究論文ではなく、自治体・教育委員会が編纂する「正史」であることによる制約・特性、とくに事件や不祥事などがどこまで書けるか、一方で目を背けることのできないこともあるのではないかといったことが議論された。②では郡役所文書など資料の発掘・手法や統廃合される学校の所蔵資料に関して、情報交換の必要性や教職員研究への位置づけとともに、他方で教職員の多忙化による制約などが議論された。

これに対して今回のシンポジウムでは次の三つを議論の柱としたい。

第一に、以前のシンポジウムでは自治体史と自治体教育史を一体的に取り扱って議論したが、今回は両者の違いを考慮しつつ、とくに自治体教育史に焦点を絞り、なぜ自治体史とは別に自治体教育史が必要なのか、その特質はどこにあるのか、議論していきたい。

第二に、このように自治体教育史の自治体史とは異なる独自性に着目したとき、滋賀県は県としての教育史を刊行していない数少ない県の一つであり、今後その編纂・刊行に土を整えるにはどうすればよいか考えたい。

第三に、3年前に学制150年を過ぎたところだが、150年史を作った自治体はあまり見当たらない。その背景と150年史の不在がもたらす問題を考えたい。前者については自治体の財政難に求めることは容易だが、教育史研究者の側にも問題を引き取って考えていく責任があるのではないかと。後者に関しては占領期以降を対象とする戦後教育史研究がようやく成果をあげはじめたなかで、大多数の都道府県では1972年で編纂が止まっていることは想像以上に大きな問題を投げかけているようにも思われる。

総じて困難な状況のなか、自治体教育史の編纂事業が有する意義をあらためて明確化し、盛り立てていく方途を探っていきたい。

議事案：会務報告、2025 年度決算案、2026 年度予算案、役員体制

~~~~~

◆寄贈図書（前号から 2026 年 3 月 26 日までの事務局到着分）

- ・林喜子会員より：林喜子『近代日本特別学級成立史研究―〈通級式〉特別学級の誕生』世織書房、2026 年 2 月

◆会費納入について

- ・金額入り（¥4,000）の振込用紙が入っている方は昨年度までの会費納入が終了しておりますので、2026（令和 8）年度分を納入して下さい。
- ・金額なしの振込用紙が入っている方は、封入したメモをご覧になり、未納分も納入して下さい。入金後、当該年度の『地方教育史研究』を発送いたします。
- ・2026 年度会費納入済の方に、刊行後順次『地方教育史研究』第 47 号をお送りいたします。刊行は 5 月末日以降となる見込みです。刊行、発送までしばらくお待ちください。

- ◆『地方教育史研究』第 48 号（2027 年 5 月刊行予定）の原稿募集の告知は、6 月上旬に学会ホームページ上で行う予定です。

【紀要のバックナンバーについて】

紀要のバックナンバーを購入することが可能です。1 部につき 1,000 円（送料込み）です。在庫及び詳細については、学会 HP 内の「紀要」→「『地方教育史研究』バックナンバー」をご参照ください。

全国地方教育史学会 事務局

〒658-0001 兵庫県神戸市東灘区森北町 6-2-23  
 甲南女子大学教育学部子ども教育学科 軽部勝一郎 研究室  
 TEL 078-413-3060 FAX 078-413-3007  
 E-mail kkarube@konan-wu.ac.jp  
 ※事務局の電話番号が一部変更となりました。